

「参加国立台湾大学スプリングスクール2017 報告書」

京都大学農学部3年 大森真史

①学習成果

僕がこのプログラムに申し込んだのはただ台湾に行ってみたい、屋台の料理を食べてみたいという理由だけで中国語にはあまり興味はなかった。中国語はほぼ勉強したことがなく台湾に行くことが決まってから必死に勉強し、台湾大学の授業ではなんとかついていくことができた。授業では先生との距離が近く、またしっかりと授業を計画してくれていた。最後の方では先生の言っていることがかなり分かるようになってきたし、簡単な会話であればできるようになった。最後のプレゼンテーションでは中国語で漫才(相声)をした。自分は内向的な性格だがこのプログラムを通してたくさんの友達ができ、また人前でしゃべる度胸もついたように思う。中国語でこれだけできるのだから日本語、英語でのプレゼンテーションはなんてことないと感じられると思う。

②海外での経験

海外での経験は自分の寛容性を高めるのに役立ったと思う。最初は驚くようなことでも一度受け入れてみるのが大事だと感じた。自分が知らないという理由だけで拒絶するのはもったいない気がする。僕の場合は台湾のすごく臭い豆腐、臭豆腐がそうだった。夜市で強烈なおおいを放っていた臭豆腐を最初は敬遠していたが食べてみるとおいしかった。今まで食べなかったのがもったいなく感じた。こういう経験は食べ物だけでなくいろいろなものに当てはまると思う。今度海外に出たら自分の知らないことに挑戦したい。

③プログラム内容

平日の午前は必ず中国語の授業があり午後は中国語または台湾文化を学ぶ授業で午後がフリーの日もあった。土曜日は台湾大学の生徒が九份などいろいろな場所に連れて行ってくれた。日曜日は完全に自由に遠くまで旅行に行く人もいた。

④進路への影響

このプログラムで出会えた人からは多くの刺激をもらった。国際的な視点を持っている人が多く留学した人、留学予定の人、留学したいと考えている人がたくさんいた。自分は良い機会があればしたいぐらいだったが、このプログラムを終えて留学したい気持ちが大きくなっていた。台湾大学は勉強するには最適の環境で、また僕の所属している果樹研究室とも共同研究していて留学するならここが良いなと思った。研究室の先輩が台湾大学に留学していてその先輩にライチ農家のところに連れて行ってもらった。台湾は日本にはない熱帯果樹が多く興味深かった。今は熱帯果樹を研究する予定はないが、将来研究してみたいと思った。